

マルソデカラッパ

分類：十脚目 爬行亜目 短尾区 カラッパ科
 学名：Calappa calappa
 英名：

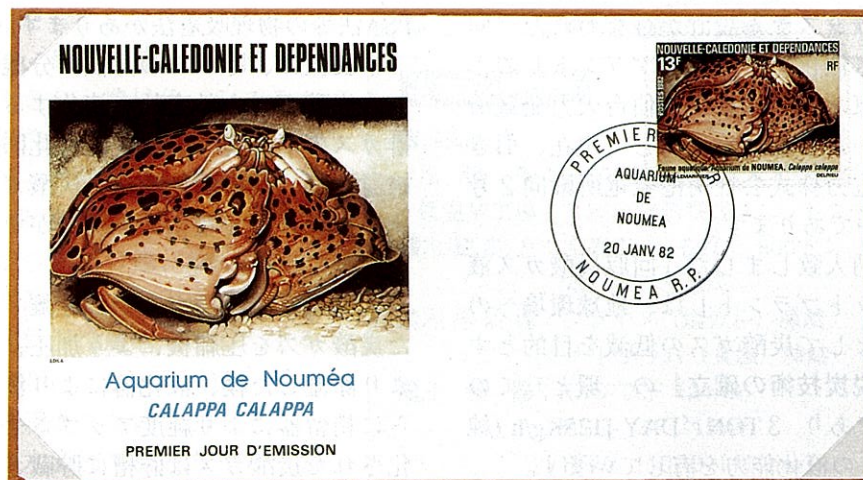
カラッパ類の内でも大きく甲長は、72mm、甲巾は124mm位、相模湾から紀伊半島、奄美大島、ハワイ諸島、太平洋温帯熱帯海域及びインド洋熱帯海域にかけて広く分布する。カラッパ類は甲の中心から後側縁にかけてひさし状に広がり大きく甲面から張り出すが、カラッパ属 (Gen Calappa) の中で本種が最も良く発達している。歩脚はこの甲面の張り出した部分にたたみこむことが出来るが、夜間には後方にいざるように移動しながら、大きく巾の広い頑丈な鉗脚で二枚貝の貝殻を割って食べる。昼間は砂の中に眼だけ出して浅く潜っていることが多い。甲面の色は全体的に淡橙色又は淡褐色のものと、甲面に黒紫色の大小の斑紋のあるものがある。甲面及び歩脚共殆ど毛がない。



カラッパの一種 C. granulata



マルソデカラッパ



テナガヒシガニ

分類：十脚目 爬行亜目 短尾区 ヒシガニ科
 学名：Parthenope longimanas
 英名：

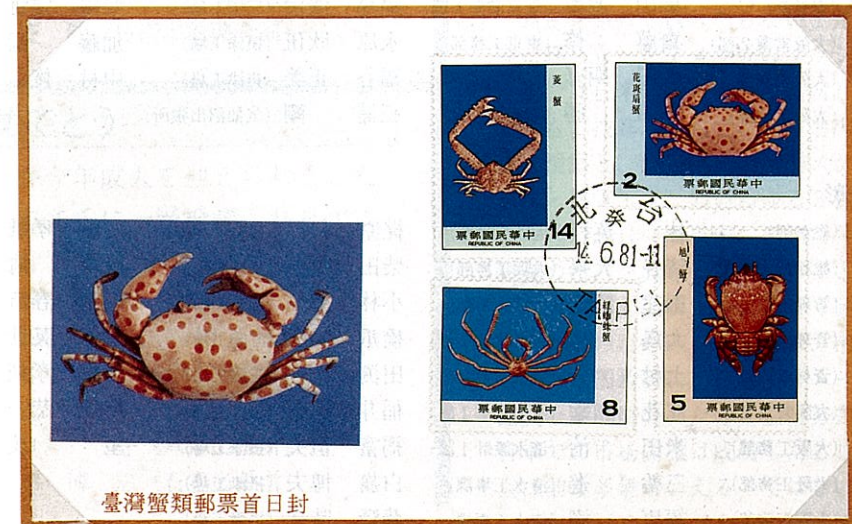
紀州南岸から沖縄、台湾、東南アジア、オーストラリア及びインドからモーリシャスにかけて分布するが、日本では稀である。甲は横楕円形、鉗脚は極めて長く甲長の約4倍程あって長節及び掌節が特に長い。前後縁、上下面共に大小の鋭い棘に被われている。歩脚は短く細い。甲面及び鉗脚には顆粒が見られるが何れも先端が鋭く尖る。



ヒラアシクモガニ(クモガニ科)
 Platymaia alcocki



テナガヒシガニ



臺灣蟹類郵票首日封